

1442年のネイティブ・アメリカンの居住地
(インディアン)



1977年のネイティブ・アメリカンの居住地



1620年の森の分布



1920年の森の分布



安田氏は「家畜の民」の世界観が、直線的・発展的であることを指摘している。わたし自身は、ヨーロッパ19世紀の発展史観が森林破壊を内包するものであることを先の拙著でくりかえし説いた。ターナーもウェップもそうした世界観を共有している。図のような痛ましい森の消滅を見ると、アメリカがそのような世界観・史観による、人類にとってマイナスの意義をもった巨大な実験場であったように思えてならないのである。

おわりに

日本ではまだまだアメリカの民主主義は一つの理想として語られることが多い。アメリカのようにならない限り日本は遅れているという発想だ。しかし果たしてそうだろうか。民主主義の重要性を疑うものではないが、「森の民」に適合した民主主義があるのではないだろうか。アメリカを参考にするにしても、かつて当のターナーが喚起を促してくれた次の言葉を忘れるべきではないであろう。

自由な土地から生まれた民主主義は、利己性と個人主義が強く、行政上の経験や教育に対して偏狭で、個人の自由を適度な限界をこえてゴリ押ししようとして、利点と共に危険もはらんでいる(36頁)。